

第4次あいち多文化共生推進 プランについて

近藤敦（名城大学）

2023年1月18日(水)10時5分～10時20分
あいち国際プラザ

1 経緯と特徴

- 2006年の総務省の「地域における多文化共生推進プラン」
①コミュニケーション支援、②生活支援、③地域づくり(意識啓発・参画)
- 2008年の第1次プラン (ブラジル、韓国・朝鮮、中国)
意識づくり③、参加③、暮らしやすい地域づくり①②、
- 2013年の第2次プラン (ブラジル、中国、韓国・朝鮮)
参加③(教育・日本語・多言語)、意識づくり③、暮らしやすい地域①②、
- 2018年の第3次プラン (ブラジル、中国、フィリピン)
ライフサイクルに応じた支援①②、共生関係づくり③、地域への支援③
- 2018年の総合的対応策 (←特定技能)
- 2020年の総務省の改訂プラン
①コミュニケーション支援、②生活支援、③意識啓発と社会参画、
④地域活性化とグローバル化対応 (←ICC 多様性を都市の活力に)
- 2022年の国のロードマップ
- 2023年の第4次プラン (ブラジル、中国、ベトナム)

2 改訂の背景

- 1 新規増加国への言語対応の難しさ ex ベトナム、ネパール
- 2 特定技能創設・技能実習見直しにより、施策対象に
- 3 デジタルの活用
- 4 コロナ対応
- 5 SDGsの視点
- 6 総合的対応策やロードマップによる国の多文化共生政策
- 7 (→ウクライナその他の広義の難民対応)

3 興味深い内容（課題と展望→）

• ① コミュニケーション支援

母語教育の推進（乳幼児期）

日本語学習支援基金による助成（子ども期）

ICTを活用した多言語対応（←デジタル化）

やさしい日本語の普及（←多国籍化） 初期日本語教育の促進

あいち地域日本語教育推進センターや国の支援に期待？

（→日本語教育の参照枠の活用：A1~C2の教室レベルのみえる化）

（→日本語教師の資格、メンターとしての日本語教室の先生）

② 生活支援

- ライフサイクルに応じた生活支援（←当事者目線、課題がわかる）
- 若者・外国人未来塾（高校中退者）
- 夜間中学の設置
- 県営住宅入居者への外国人サポートデスクでの多言語対応
- ウェブでの早期適応研修カリキュラム
（→生活オリエンテーション→社会オリエンテーション）
- 外国人労働者の適正雇用と日本社会への適応を促進するための憲章
（→多様性憲章：多様性の尊重が社会にプラスの影響）

③ 意識啓発と社会参画促進

- 愛知県人権尊重の社会づくり条例（反差別条例）
（本邦外出身者に対するヘイトスピーチの概要の公表・利用制限）
（インターネット上のヘイトモニタリングと法務局への削除要請）
- 地域における交流・相互理解の促進
（→バディ：高浜市、ワールデン：刈谷市）
- 学校での国際理解教育（→多文化共生教育）
- 職員や各種委員等への外国人県民の採用

④ 地域活性化の推進やグローバル化への対応

- 創業を目指す外国人県民の支援
(あいち外国人起業&経営支援センター)
- 外国人県民の活躍事例紹介
(→バイリンガルなグローバル人材の育成)